

ふるさと自慢の加工品輝く

―南丹食の祭典コンテスト
最優秀賞「黄金芋」―

「南丹ものづくりの祭典」の催しの一つとして開催した「南丹食の祭典コンテスト」。市内の各加工グループから25点のこだわりの品が出品され、10月31日に審査を行いました。最優秀賞には、地元産のサツマイモが使われ、日本の原風景のある美山の田舎らしさがでているとの評価で、大野農産加工グループの「黄金芋」が輝きました。今後1年間、「ものづくりのまち南丹市」のロゴマークの入ったシールを付け、市内外へとアピールしていきます。



▲シナモン風味でホクホク感のある「黄金芋」

先人から継承した環境守る ルール作りに向けスタート

―第1回南丹市環境審議会―

南丹市美しいまちづくり条例に基づく南丹市環境基本計画を策定するため、第1回環境審議会を11月9日に市役所で開催。佐々木市長から委員16人に委嘱状を交付し、会長に中川重年氏（京都学園大学教授）を選出しました。地球規模での環境影響や、南丹市における山林の荒廃など環境基本計画を策定するにあたっての背景、11月下旬から実施する地域ヒアリング調査をはじめ今後の策定スケジュールについて確認しました。



▲計画策定に向けて基本的事項を確認

今冬も除雪、お願いします

―南丹市・京丹波町
雪かき隊出動式―

除雪期間（12月1日～3月15日）を迎え、「雪かき隊出動式」を12月3日に南丹市美山支所で開催。参加したみやま保育園幼児、宮島小学校児童を代表して湯浅龍典くん（宮島小4年）が通学路の除雪に感謝し、「体に気を付けて頑張ってください」と激励。菅井達夫美山町建設業協会会長が「安全第一に迅速な除雪作業を行います」と決意を述べられました。子どもたちは3台の除雪機械に搭乗したり、大きなタイヤと背比べしたり大喜びでした。



▲除雪機械に搭乗。「うわ、高い〜」

広がる企業参加の森づくり

―「森林の利用保全に
関する協定」調印式―

11月11日、京都市内において石油エネルギーとカーケアの総合商社モリカワグループ（木下泰一代表取締役会長）と、京都府、南丹市、美山町江和区、社団法人京都モデルフォレスト協会との「京都モデルフォレスト運動」推進のための協定が締結されました。当グループは、地球温暖化防止活動の一環として美山町江和地内の山林約0・2haで広葉樹を植栽し、今後、地元の方々などの協力を得て、社員や家族などによる育成・整備や環境学習を進めていけます。



▲協力関係を確認して行われた調印式